

**2027年3月期
第1四半期決算説明会**

TDK株式会社
戦略本部 IR・SRグループ
2026年7月31日



本日のアジェンダ

Agenda



1. 2027年3月期
第1四半期連結業績概要
2. 2027年3月期
通期業績の見通し

1. 2027年3月期 第1四半期連結業績概要

副社長執行役員CFO 山西 哲司

山西でございます。それでは私より連結業績概要についてご説明します。

2027年3月期 第1四半期決算のポイント

▶ ICT関連製品の生産台数減少も、AIデータセンター関連の堅調な需要により、前年同期比で大幅な増収増益

売上高		営業利益	
7,410 億円		863 億円	
〔 前期比 +38.3% 〕		〔 前期比 +53.0% 〕	

ポイント

- ・ ICT市場関連製品の生産台数減少も、ICT市場向け小型二次電池、センサの販売が大幅に増加
- ・ AIデータセンター向けHDD需要が堅調に推移し、HDDヘッド及びサスペンションの販売が増加
- ・ 自動車市場向け受動部品及びセンサの販売が増加
- ・ 産業機器市場向け中型二次電池、受動部品、電源、センサの販売が増加

第1四半期決算のポイントについてご説明します。

当社の業績に影響を与えるエレクトロニクス市場では、メモリ需給の逼迫や価格高騰の影響を受けて、スマートフォン等ICT関連製品の生産が前年同期比で減少しました。一方で、AIデータセンター向けニアライン用HDDの需要は引き続き堅調に推移しました。また、産業機器市場では設備投資需要が堅調に推移しました。自動車市場においては、電動化、自動運転化の進展により、需要は底堅く推移しました。

このような経営環境のなか、第1四半期は、ICT関連製品の生産減少の影響はあったものの、スマートフォン等における新製品の販売効果に加え、AIデータセンター関連の需要が堅調に推移し、全てのセグメントにおいて前年同期比で増収増益となりました。

その結果、全体で前年同期比38.3%の増収、53%の増益となり、売上高、営業利益ともに第1四半期の業績として、過去最高を更新しました。

2027年3月期 第1四半期決算概要

▶ 売上高及び営業利益は前年同期比で増収増益、売上高及びすべての段階利益で過去最高を更新

(億円)	2026年3月期 第1四半期実績	2027年3月期 第1四半期実績	前期比	
			増減	増減率
売上高	5,358	7,410	+2,053	+38.3%
営業利益	564	863	+299	+53.0%
営業利益率	10.5%	11.6%	+1.1pt	-
税引前利益	576	945	+369	+64.0%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	415	806	+391	+94.4%
1株当たり四半期利益 (円)	21.85	42.45	-	-
対ドル為替レート (円)	144.59	159.43	10.3%の円安	
対ユーロ為替レート (円)	163.78	185.32	13.2%の円安	

為替変動による影響金額

売上高 約725億円の増収

営業利益 約113億円の増益

為替感応度

(1円の変動による影響額)

ドル

売上高 130億円

営業利益 20億円

ユーロ

売上高 20億円

営業利益 3億円

第1四半期の損益概要についてご説明します。

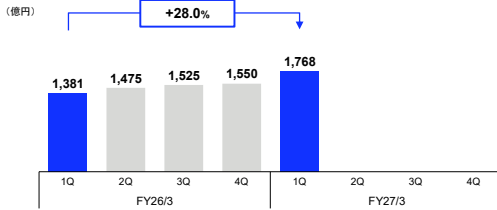
対ドル等の為替変動で、売上高で約725億円の増収、営業利益で約113億円の増益影響を含みます。売上高は7,410億円、前年同期比2,053億円、38.3%の増収となりました。営業利益は863億円、前年同期比299億円、53.0%の増益となりました。税引前利益は945億円、前年同期比369億円、64.0%の増益となりました。親会社の所有者に帰属する四半期利益は806億円、前年同期比391億円、94.4%の増益となり、売上高、及びすべての段階利益で過去最高を更新しました。1株当たり四半期利益は42円45銭となりました。営業利益における為替の感応度は、円とドルの関係では、前回同様1円の変動で年間約20億円、円とユーロの関係では、約3億円と試算しています。

第1四半期 事業別概況

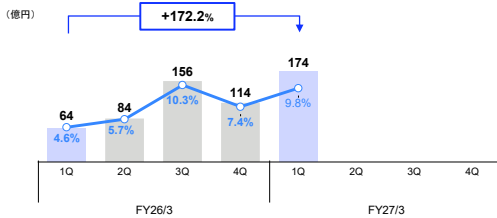
受動部品

▶ 重点3市場すべての販売が増加、特にAIデータセンター向け販売が大幅に増加し増益

売上高



営業利益・営業利益率



セラミック コンデンサ

- ・前年同期比で増収増益
- ・AIデータセンター向け販売が増加

アルミ・ フィルム コンデンサ

- ・前年同期比で増収増益
- ・AIデータセンター及び自動車市場向け販売が増加

インダクティブ デバイス

- ・前年同期比で増収増益
- ・自動車市場向け販売が増加

高周波部品

- ・前年同期比で減収も収益性改善
- ・自動車市場向け及びICT市場向け販売が減少

圧電材料部品・ 回路保護部品

- ・前年同期比で増収増益
- ・産業機器市場及び自動車市場向け販売が増加

第1四半期セグメント別の状況についてご説明します。

受動部品セグメントは、重点3市場である自動車、ICT、産業機器、すべての市場の販売が増加しました。特にAIデータセンター向けの販売が大幅に増加し、売上高は1,768億円、前年同期比28.0%の増収、営業利益は174億円、前年同期比2.7倍の増益となりました。

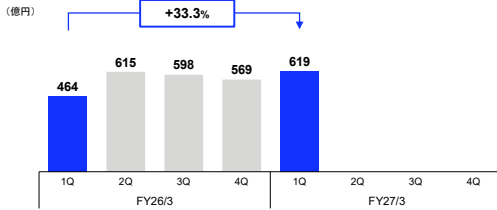
セラミックコンデンサは、AIデータセンター向けの販売が増加し、増収増益となり収益性も大きく向上しました。アルミ・フィルムコンデンサは、自動車市場向けの販売増加に加え、AIデータセンター向けの販売が大きく増加し、増収増益となりました。インダクティブデバイスは、自動車市場向けの販売が増加し、増収増益となりました。高周波部品は、自動車市場向けおよびICT市場向けの販売が減少したものの、収益性は改善しています。圧電材料部品・回路保護部品は、産業機器市場向けおよび自動車市場向けの販売が増加し、増収増益となりました。

第1四半期 事業別概況

センサ応用製品

▶ ICT市場及び産業機器市場向け販売数量が増加し、センサ全体で大幅な増収増益

売上高



温度・圧力センサ

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ 自動車市場及び産業機器市場向け販売が増加

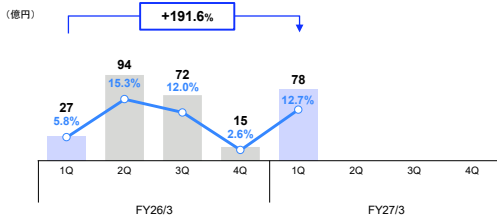
磁気センサ

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ ICT市場向け及び産業機器市場向け販売が増加

MEMSセンサ

- ・ 前年同期比で増収、黒字転換
- ・ ICT市場及び産業機器市場向けモーションセンサの販売が増加

営業利益・営業利益率



TDK In Everything, Better

Copyright © TDK Corporation, 2026.

7

センサ応用製品セグメントは、ICT市場及び産業機器市場向け販売数量が増加し、売上高は619億円、前年同期比で33.3%の増収、営業利益は78億円、前年同期比約3倍の増益となりました。

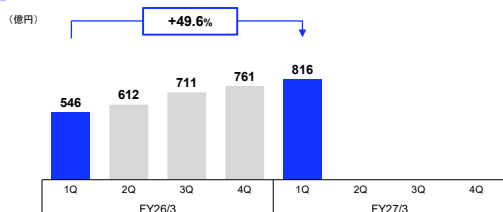
温度・圧力センサは自動車市場向け及び産業機器市場向けの販売が増加し、増収増益となりました。磁気センサは、TMRセンサにおいてスマートフォン向けの販売が増加、またHallセンサも産業機器市場向けの販売が増加し、磁気センサ全体で増収増益となりました。MEMSセンサは、モーションセンサがICT市場向け及び産業機器市場向けで販売増加となり、MEMSセンサ全体で増収、前年の赤字から黒字に転じ、センサ全体の収益性向上に大きく貢献しています。

第1四半期 事業別概況

磁気応用製品

▶ HDD市場の堅調な需要継続によりHDDヘッド及びサスペンションの販売増、収益性向上

売上高



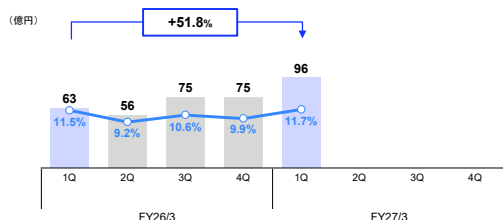
HDDヘッド・
HDDサスペン
ション

・ 前年同期比で増収増益

マグネット

・ 前年同期比で増収減益

営業利益・営業利益率



TDK In Everything, Better

Copyright © TDK Corporation, 2026.

8

磁気応用製品セグメントは、売上高は816億円、前年同期比49.6%の増収、営業利益は96億円、前年同期比51.8%の増益となりました。

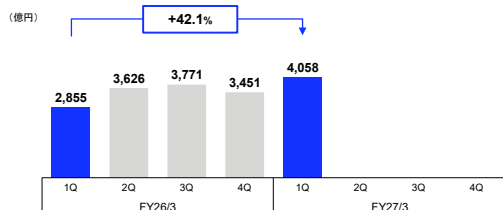
AIデータセンター需要の高まりを背景に、HDD市場において堅調な需要が継続するなか、販売数量はヘッドで36%、サスペンションで31%の増加となり、大幅な増収増益となりました。マグネットは、自動車市場向けの販売が増加し増収となりましたが、前年に約10億円の一時収益を計上していたことから減益となりました。一方で、品質改善等のコスト改善効果により、赤字は実質的には縮小しています。

第1四半期 事業別概況

エネルギー応用製品

▶ 小型二次電池は、ICT関連製品の生産台数減影響もあり販売数量減ながら、売上増

売上高



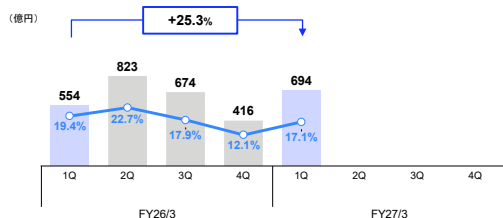
エネルギーデバイス (二次電池)

- ・ 前年同期比で増収増益
- ・ 小型二次電池は販売数量減ながら、パックビジネス拡大により増収増益
- ・ 産業機器市場向け中型二次電池の販売増

電源

- ・ 産業機器用電源は増収増益

営業利益・営業利益率



TDK In Everything, Better

Copyright © TDK Corporation, 2026.

9

エネルギー応用製品セグメントは、売上高は4,058億円、前年同期比42.1%の増収、営業利益は694億円、前年同期比25.3%の増益となりました。

二次電池は、ICT関連製品の生産台数減少により、販売数量が減少したものの、小型電池において、材料価格の変動等に伴う販売価格の是正による売上増加や、パックビジネスの拡大もあり、増収増益となりました。中型電池においても、産業機器市場向けの販売が増加し、二次電池全体で増収増益となりました。産業機器用電源は、半導体製造装置向け等の需要に、緩やかな回復傾向がみられ、増収増益となりました。

なお、当第一四半期に、EV用電源事業において、新規開発事業の事業譲渡が完了したことから、譲渡益26億円の一時収益を計上しています。

事業別四半期実績

		2026年3月期	2026年3月期	2027年3月期	前年同期比 [C]-[A]		4Q-1Q推移 [C]-[B]	
(億円)		1Q [A]	4Q [B]	1Q [C]	増減	増減率	増減	増減率
売上高	コンデンサ	598	693	808	+210	+35.1%	+114	+16.5%
	インダクティブデバイス	491	563	620	+129	+26.2%	+57	+10.2%
	その他受動部品	293	294	341	+48	+16.4%	+46	+15.8%
	受動部品	1,381	1,550	1,768	+387	+28.0%	+218	+14.1%
	センサ応用製品	464	569	619	+154	+33.3%	+50	+8.7%
	磁気応用製品	546	761	816	+271	+49.6%	+55	+7.3%
	エナジー応用製品	2,855	3,451	4,058	+1,203	+42.1%	+607	+17.6%
	その他	111	132	149	+38	+34.3%	+17	+13.1%
	合計	5,358	6,463	7,410	+2,053	+38.3%	+948	+14.7%
営業利益	受動部品	64	114	174	+110	+172.2%	+60	+52.5%
	センサ応用製品	27	15	78	+52	+191.6%	+63	+423.4%
	磁気応用製品	63	75	96	+33	+51.8%	+20	+27.0%
	エナジー応用製品	554	416	694	+140	+25.3%	+278	+66.8%
	その他	△25	△47	△18	+6	-	+29	-
	小計	683	573	1,023	+341	+49.9%	+450	+78.6%
	調整	△118	△156	△160	△42	-	△4	-
	合計	564	417	863	+299	+53.0%	+446	+107.1%
営業利益率		10.5%	6.4%	11.6%	+1.1pt	-	+5.2pt	-
対ドル為替レート (円)		144.59	156.94	159.43				
対ユーロ為替レート (円)		163.78	183.68	185.32				

第4四半期から第1四半期のセグメント別売上高及び営業利益の増減についてご説明します。

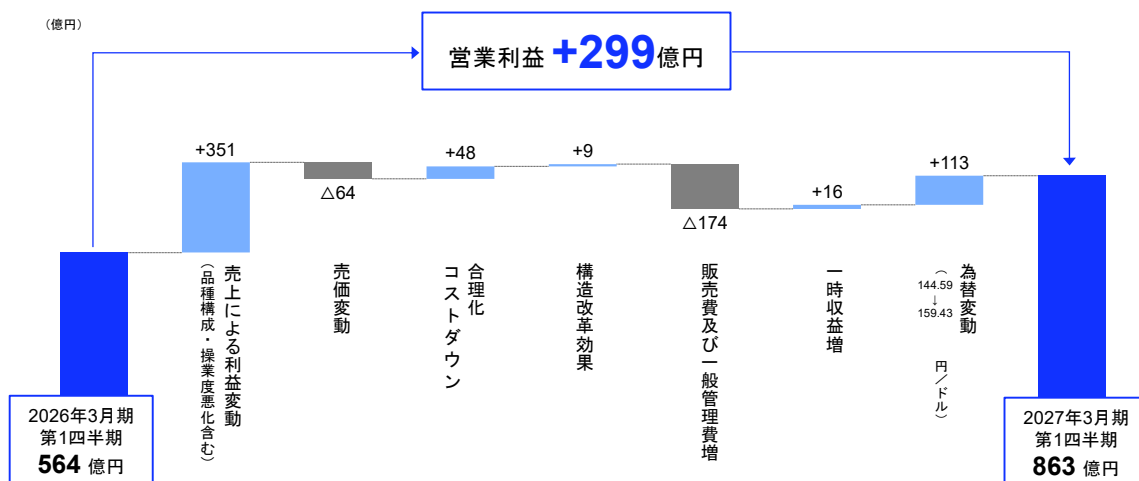
受動部品セグメントは、売上高が第4四半期から218億円、14.1%の増収、営業利益は60億円、52.5%の増益となりました。セラミックコンデンサは、自動車市場向けの販売増加に加えて、AIデータセンター向け等、産業機器向けの販売が増加し、増収増益となりました。アルミ・フィルムコンデンサはAIデータセンター向け及び自動車市場向けの販売が増加し増収増益となりました。インダクティブデバイスは、自動車市場向けやICT市場向けの販売が増加し、増収増益となりました。高周波部品は、ICT市場向けの販売が増加し、増収増益となりました。圧電・回路保護部品は、自動車市場向け及び産業機器向けの販売増加により、増収増益となりました。

センサ応用製品は、売上高が第4四半期から50億円、8.7%の増収、営業利益は63億円、5倍超の増益となりました。温度・圧力センサは自動車市場向けや産業機器向けの販売増加で、増収増益となりました。磁気センサは、Hallセンサの売上は横ばいながら、TMRセンサにおいて、ICT市場向けの販売が季節性の影響で増加となり、磁気センサ全体で増収となりました。利益については、Hallセンサで第4四半期に計上した構造改革費用12億円を除き、磁気センサ全体で増益となりました。MEMSセンサは、モーショセンサにおいて産業機器向けの販売が増加し、MEMSセンサ全体で増収・増益となりました。

磁気応用製品セグメントは、売上高が第4四半期から55億円、7.3%の増収、営業利益は20億円27%の増益となりました。HDDヘッドは販売数量が12%増加し、増収となりました。また、サスペンションも販売数量が8%増加し、HDDヘッド・サスペンション全体では、増収増益となりました。マグネットは減収ながら、コスト改善を進め赤字が縮小しています。

エナジー応用製品セグメントは、売上高が第4四半期から607億円、17.6%の増収、営業利益は278億円、66.8%の増益となりました。ICT市場向け小型電池の販売数量が約4%増加、さらに小型電池のパック製品や中型電池の販売増加もあり、二次電池全体で大幅な増収増益となりました。産業機器用電源は需要回復により増収増益となりました。なお、先程ご説明の通り、EV用電源事業において、新規開発事業の譲渡益を第1四半期に26億円計上しています。第4四半期に計上した構造改革費用約70億円と、第1四半期に計上した事業譲渡益26億円との差額96億円の増益影響が、エナジー応用製品の利益増減に含まれています。

第1四半期 営業利益増減分析

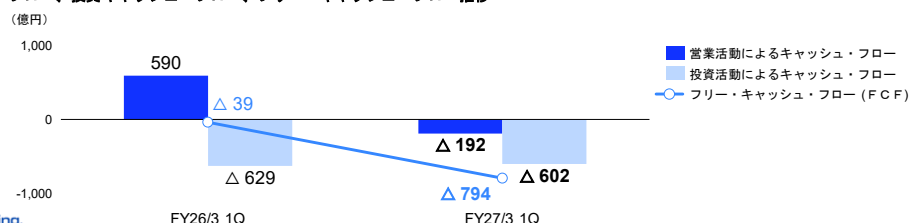


第1四半期の営業利益299億円増益の増減分析についてご説明します。全セグメントにおいて販売数量が増加したことで、351億円の増益となりました。売価変動による影響が64億円あるものの、合理化コストダウン48億円、前期に実施した構造改革に伴う効果9億円でほぼ吸収しています。販管費は、新技術や新製品の開発等を加速している二次電池や、HAMR等の次世代技術の開発を進めているHDDヘッドを中心としたR&D費用等の増加により、174億円増加しました。一時収益の増加による影響16億円、さらに円安為替影響113億円の増益効果により、全体で299億円の増益となりました。

第1四半期 キャッシュ・フロー

(億円)	2026年3月期 第1四半期実績	2027年3月期 第1四半期実績	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	590	△ 192	△ 782
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 629	△ 602	+27
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	△ 39	△ 794	△ 755
財務活動によるキャッシュ・フロー	312	854	+542
為替変動による影響額	△ 143	214	+357
現金同等物残高	7,104	8,702	+1,598

■ 営業キャッシュ・フロー、投資キャッシュ・フロー、フリー・キャッシュ・フロー推移



キャッシュ・フローの状況についてご説明します。

第1四半期の営業キャッシュ・フローは192億円のマイナスとなりました。売上拡大に伴う運転資本の増加に加え、一時的なキャッシュ・アウトとして、源泉税の支払が減少要因となっています。投資キャッシュ・フローは、設備投資は、ほぼ期初想定並みで推移しました。また、二次電池関連では、Linerigy社の買収に伴うキャッシュ・アウトが含まれており、602億円となりました。

その結果、フリー・キャッシュ・フローは794億円のマイナスとなりました。第1四半期では、企業の買収や運転資本の増加等の事業拡大に伴う投下資本の増加や、一時的なキャッシュ・アウトもあり、フリー・キャッシュ・フローが大きくマイナスとなっていますが、現中計期間で想定しているキャピタル・アロケーションに、大きな影響を与えるものではありません。



2. 2027年3月期 通期業績の見通し

副社長執行役員CFO 山西 哲司

続きまして、2027年3月期通期業績見通しについてご説明します。

第2四半期 セグメント別売上高増減イメージ

	2026年3月期 第1四半期実績	2027年3月期 第2四半期予想（前四半期比）		増減要因
		為替レート 第2四半期想定	為替レート 第1四半期基準	
受動部品	1,768	△4～△1%	+2～+5%	・自動車市場向けインダクティブデバイス、 サーバー向けアルミ電解コンデンサの販売増
センサ応用製品	619	△3～±0%	+3～+6%	・ICT市場向け磁気センサ、MEMSマイクロフォンの販売増
磁気応用製品	816	±0～+3%	+5～+8%	・HDDヘッド及びサスペンションの販売増
エナジー応用製品	4,058	+2～+5%	+9～+12%	・ICT市場向け小型二次電池の販売増 ・産業機器市場向け中型二次電池の販売増
その他	149	-	-	
合計	7,410	±0～+3%	+6～+9%	
対ドル為替レート（円）	159.43	150.00	159.00	
対ユーロ為替レート（円）	185.32	175.00	185.00	

第1四半期から第2四半期のセグメント別売上高増減イメージについてご説明します。

第2四半期の為替前提是对ドル150円と、期初に発表した前提から変更はありませんが、ここでは為替の影響を除いた増減をご説明します。

受動部品セグメントは、インダクティブデバイスが自動車向けで増加、またAIサーバー向けにアルミ電解コンデンサをはじめ各種製品の販売が増加することで、全体で2%～5%の増加を見込んでいます。

センサ応用製品セグメントは、ICT市場向けの季節性により磁気センサやMEMSマイクロフォンの販売が増加することで、全体で3%～6%の増加を見込んでいます。

磁気応用製品セグメントは、キャプティブ向けの販売数量増加もあり、HDDヘッドで10%の数量増、HDDサスペンションで約6%の数量増を見込んでおり、セグメント全体で6%～8%の増加となる見通しです。

エナジー応用製品セグメントは、スマートフォンの生産台数は季節性も踏まえた上で、今期は第2四半期でピークを迎える見込んでおり、第1四半期対比で約5%増加するとみています。小型電池の販売数量は約10%の増加、さらに中型電池は産業機器向けの販売が増加すると見ており、全体で9%～12%の増加を見込んでいます。

2027年3月期 連結業績見通し

▶ 2026年4月発表の見通しから変更なし

(億円)	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想	前期比	
			増減	増減率
売上高	25,048	25,800	+752	+3.0%
営業利益	2,724	2,950	+226	+8.3%
営業利益率	10.9%	11.4%	+0.5pt	-
税引前利益	2,768	3,000	+232	+8.4%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1,957	2,250	+293	+15.0%
ROIC	7.5%	8.0%	+0.5pt	-
FCF	1,299	600	△699	△53.8%
1株当たり当期利益（円）	103.09	118.54	-	-
年間配当金（円）	36.00	40.00	-	-
対ドル為替レート（円）	150.76	150.00	-	-
対ユーロ為替レート（円）	174.76	175.00	-	-

2027年3月期通期連結業績の見通しについてご説明します。

第1四半期は、AIデータセンター向けの販売が好調に推移したことに加え、ICT関連製品の生産台数が前期比で減少するなか、スマートフォン等の新製品販売効果等もあり、期初に想定していた業績水準を大きく上回りました。第2四半期においても、すべてのセグメントにおいて期初想定していた売上水準を上回ることを予想しており、全社業績は引き続き好調に推移することを想定しています。

しかしながら、今後の世界情勢の動向や需要動向の変化、さらに為替水準についても慎重に見極めていく必要があると認識しており、2027年3月期通期業績見通しは、期初に発表した数値を据え置きました。

TDK United Report 2026（統合報告書）公開のお知らせ

掲載URL

https://www.tdk.com/ja/ir/ir_library/annual/index.html



TDK In Everything,
Better

公開日

2026年7月31日（金）

TDK United Report 2026のポイント

- ① 企業価値を向上させる“連動”『United』をテーマとしました
- ② 重要課題（マテリアリティ）を軸に構成しました

ページ 構 成

Chapter 1	TDKについて
Chapter 2	TDKの長期ビジョン
Chapter 3	中期経営計画と事業戦略
Chapter 4	TDKの重要課題（マテリアリティ）
	TDKのガバナンス

過去発行物の外部評価



Copyright © TDK Corporation, 2026.

16

最後に2つお知らせがあります。

本日7月31日に「TDK United Report 2026」を発行しました。今回はTDK Unitedでの「連動」をテーマに、マテリアリティを軸として、長期ビジョンの実現と企業価値向上に向けた取り組みを伝える内容となっています。TDKウェブサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

掲載URL：https://www.tdk.com/ja/ir/ir_library/annual/index.html

TDK Investor Day（未財務資本説明会）開催のお知らせ

前回（2025年）の様子



TDK In Everything,
Better

開催日時 2026年9月1日（火）15:30 開始

形式 オンラインでリアルタイム配信予定
後日、アーカイブ動画を公開

概要 TDKの未財務資本「**人的資本**」と、
「**ソフトウェア技術**」についてご紹介

アーカイブ掲載予定URL

https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/strategy/20260901/index.html

Copyright © TDK Corporation, 2026.

17

9月1日にInvestor Dayを開催します。
TDKの未財務資本である「人的資本」と「ソフトウェア技術」について、
TDK Unitedのチームメンバーがご紹介いたします。
当日はライブ配信を予定しております。

以上私からの説明を終わります。ありがとうございました。

アーカイブ掲載予定URL：

https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/strategy/20260901/index.html

将来に関する記述についての注意事項

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといいます。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

また、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載いたします。
https://www.tdk.com/ja/ir/ir_events/conference/2027/1q_1.html